

1 当該学年・学期等における探究課題 《 地域の主要産業 》

2 単元名 『高屋ものしり博士 地域の名産を知ろう』 (全50時間=実施時期: 4月~1月)

3 単元のねらい \*本単元で特に身に付けさせたいと考えている資質・能力と、それを身に付けさせるための仕掛け(主な素材・活動等)を明確に

綿花の栽培・収穫や工場見学、デニムに関する体験学習を通して、地域の名産である井原デニムについて知るとともに、地域の良さを積極的に発信しようとする態度を養う。

4 主な活動とふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと(こと)」との出逢い・関わりの仕掛け、引き出したい子どもの姿

		課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
<b>主な活動</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校区探検をする</li> <li>高屋町にデニム関連の工場が多いことを知り、井原デニムについて勉強して、みんなに伝えたいという思いをもつ。</li> <li>デニムの原料である綿花にも興味をもち、栽培する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器やゲストティーチャーを活用して、デニムについて調べる。</li> <li>工場見学をして、地域でどのようなものが生産されているかを知る。</li> <li>綿花の活用方法について調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことを整理し、何を誰に伝えたいかを考える。</li> <li>自分たちの生活を振り返り、調べたことを発信する方法について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>井原高校の方々から綿についての学習をしてもらったり、綿花でネームプレートを作成したりする。</li> <li>1年間学習したことをスライド資料にまとめ、発表する。</li> </ul>
<b>引き出したい姿</b>	<b>いばら愛</b> (郷土愛と当事者性)	○○○○	○○○○	高屋町の魅力・特産品について多くの人に伝えたいという思いをもつことができる。	○○○○
	<b>やり抜く力</b> (忍耐と向上心)	○○○○	自己の決定した課題を意識し、目的意識をもって調べ学習に取り組むことができる。	○○○○	
	<b>まき込む力</b> (発信と協働)	○○○○	○○○○	○○○○	井原高校の方に交渉することができる。
<b>仕掛け・工夫</b>	<b>もの</b>	校区探検で、工場が多いことに気付き、興味をもつことができるようにする。	○○○○		○○○○
	<b>ひと</b>	○○○○	ジーンズソムリエジュニアの講師の方から、デニムの歴史について話を聞く。	伝える場について6年生に相談し、高屋町の地域のイベントに、まちづくり協議会の方が関わっていることを知る。	○○○○
	<b>しごと(こと)</b>	○○○○	縫製工場の見学を通して、高屋町ではデニム生地衣類の生産が盛んであることに気付く。	○○○○	○○○○
<b>アウトプットの工夫</b>		多くの人に学習の成果を伝えることのできる場を設定することで、児童の意欲を高めることができるようにする。			

5 他教科・領域、学校行事等との関連

理科 「たねをまこう」  
 社会科 「校区探検」「工場ではたらく人々の仕事」  
 国語科 「情報を引用するとき」「はじめて知ったことを知らせよう」

6 他学年、他校(園)種、外部団体との連携・接続・交流

井原高校の方々と連携して綿の使い道を考え、作品にする。

◆単元のねらい「綿花の栽培・収穫や工場見学、デニムに関する体験学習を通して、地域の名産である井原デニムについて知るとともに、地域の良さを積極的に発信しようとする態度を養う。」

課題設定

高屋町の名産は何か考える。



デニムについて知っていることを挙げていく。



話し合いを通して、原材料の綿を実際に育て、オリジナルの作品にすることを決める。

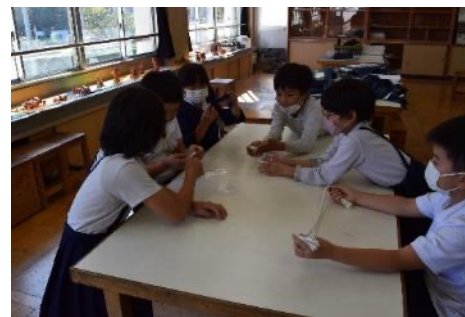


情報収集

種の状態から、水やりと観察を繰り返し行う。



ジーンズソムリエ講座を通して、綿がデニム生地になるまでの過程を知る。



整理・分析

綿の収穫を行い。観察記録をとる。



綿の使い道について、クラスで考えを出し合う。



井原高校に綿について専門的な学習をしている方々がおられることを知る。



まとめ・表現

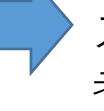
井原高校の方々から、綿繰り機と糸車の使い方について学習する。



収穫した綿を使ってネームプレートを作成する。



1年間、総合的な学習の時間で学んだとをスライド資料にまとめる。



スライド資料を保護者に発表し、ふりかえりをする。



井原市・高屋町の名産を今後も受け継いで、伝えていきたいという気持ちを高める。

◆成果（○）・課題（△）・来年度に向けて（☆）

- 綿を育てることで、知識として身に付けるだけでなく、実際に体験し作品にすることで、デニム生地や綿に対する興味関心を高めることができた。
- △予定していた活動の大部分が2学期中に終了してしまい、3学期の内容が薄くなってしまった。
- ☆デニム生地を取り扱っている工場とも連携を図り、活動の幅を広げたい。